

2019年度

泉州二次医療圏「地域医療構想」 現状と今後の方向性

大阪アプローチ

圏域ごとのデータに基づく分析をもとに
公民のイコールフットイングで
病床機能分化の議論を進める

Contents

- 1 泉州二次医療圏の概要**
 - (1) 今後の医療需要の見込み
 - (2) 医療体制の概要
 - (3) 疾患別の状況
 - (4) 入院患者の推移
 - (5) 在宅医療提供体制
 - (6) 診療実態の分析の結果
- 2 高度急性期から急性期(急性期一般※)の概要**
 - (1) 病床の現状
 - (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
 - (3) 現状と課題のまとめ

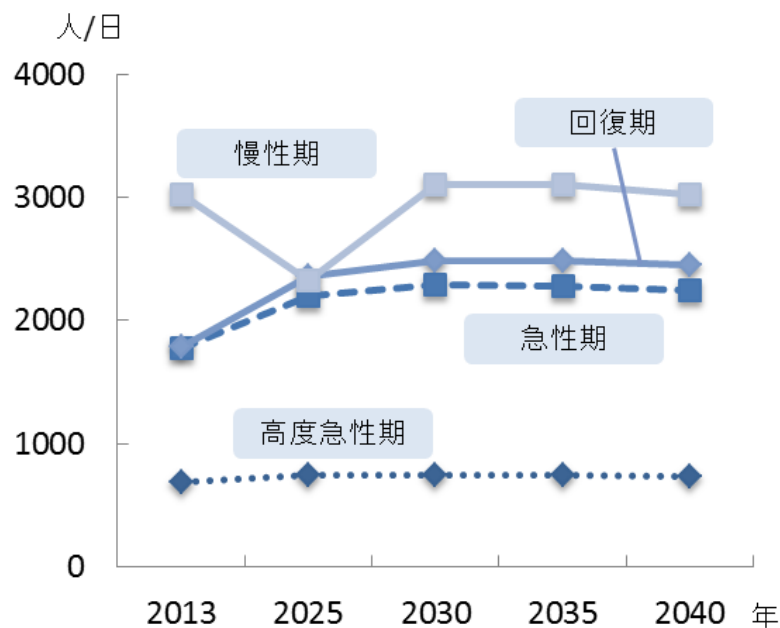
※急性期一般入院基本料 (旧7対1、10対1)
- 3 急性期(地域一般※)から回復期の概要**
 - (1) 病床の現状
 - (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
 - (3) 現状と課題のまとめ

※地域一般入院基本料 (旧13対1、15対1)
- 4 長期療養(慢性期)の概要**
 - (1) 病床の現状
 - (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)
 - (3) 現状と課題のまとめ
- 5 将来のあるべき医療体制に向けて**
 - (1) 2025年に各病院が検討している病床機能
 - (2) 2025年に各病院が検討している病床機能のまとめ

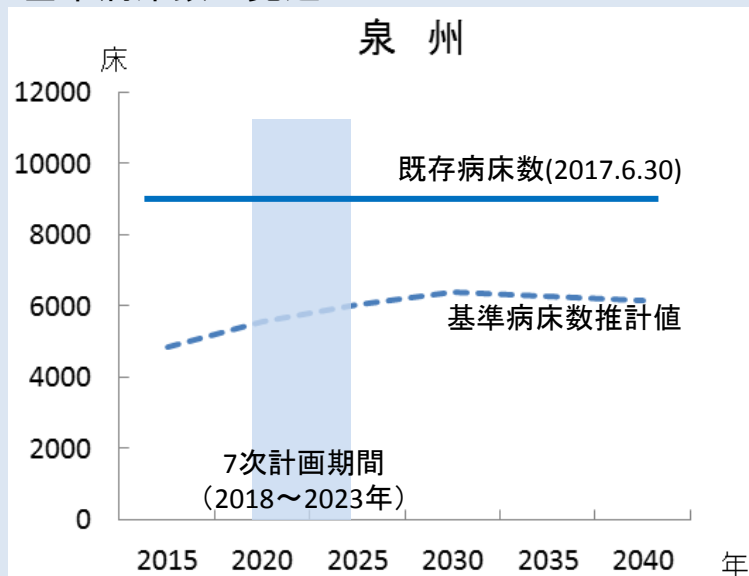
1 泉州二次医療圏の概要 (1) 今後の医療需要の見込み

泉州二次医療圏では、今後、2030年をピークに医療需要(特に、急性期と回復期)が増加する見込みである

● 病床機能ごとの医療需要の見込み(総計)



● 基準病床数の見込み



基準病床数の将来見込みでは、2030年においても、既存病床数に達しない見込み。

	2013年	2025年		2030年		2035年		2040年	
	(人/日)	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年	(人/日)	対2013年
高度急性期	692	745	1.08	749	1.08	741	1.07	729	1.05
急性期	1,772	2,198	1.24	2,286	1.29	2,279	1.29	2,247	1.27
回復期	1,781	2,361	1.33	2,490	1.40	2,487	1.40	2,455	1.38
慢性期	3,027	2,321	0.77	3,098	1.02	3,101	1.02	3,025	1.00
合計	7,272	7,625	1.05	8,623	1.19	8,608	1.18	8,456	1.16

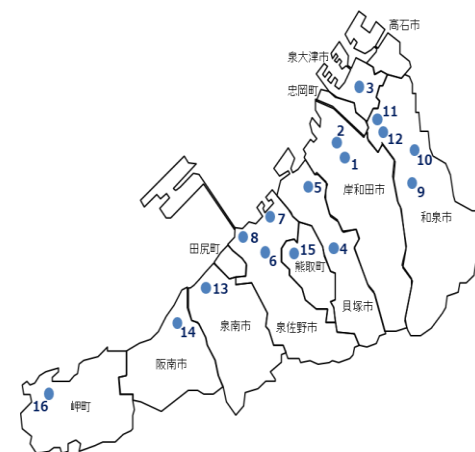
参照：第7次大阪府医療計画
一部改編

1 泉州二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要①

泉州二次医療圏では、新公立病院改革プラン補足調査対象病院が7病院、公的医療機関等2025プラン対象病院が2病院である

● 主な医療施設の状況

所在地	病院名	新公立病院改革プラン にかかると補足調査対象	公的医療機関等2025プラン 対象病院	特定機能病院	地域医療支援病院	社会医療法人開設病院	公的医療機関等	府立病院機構	在宅療養後方支援病院	がん診療拠点病院	三次救急医療機関	災害拠点病院	特定診療災害医療センター	周産期母子医療センター	感染症指定医療機関	結核病床を有する病院	エイズ治療拠点病院
岸和田市	市立岸和田市民病院	○			○	○				□							
	医療法人徳洲会岸和田徳洲会病院							○	○	○	○						
泉大津市	泉大津市立病院	○				○				○				○			
貝塚市	社会医療法人慈薫会河崎病院					○											
	市立貝塚病院	○				○				○							
泉佐野市	社会医療法人栄公会佐野記念病院					○											
	医療法人康生会泉佐野優人会病院								○								
和泉市	りんくう総合医療センター	○			○	○				○	○	○		○	○		○
	社会医療法人啓仁会咲花病院					○											
	地方独立行政法人大阪府立病院機構大阪 母子医療センター	○			○	○	○	○					○	□			
	府中病院		○		○	○				○							
泉南市	和泉市立病院	○				○				○							
	社会福祉法人恩賜財団済生会支部大阪府 済生会新泉南病院		○			○											
阪南市	社会医療法人生長会阪南市民病院	○				○											
熊取町	永山病院					○											
岬町	医療法人誠人会与田病院							○									
合計		7	2	0	3	5	8	1	4	7	2	2	1	3	1	0	1



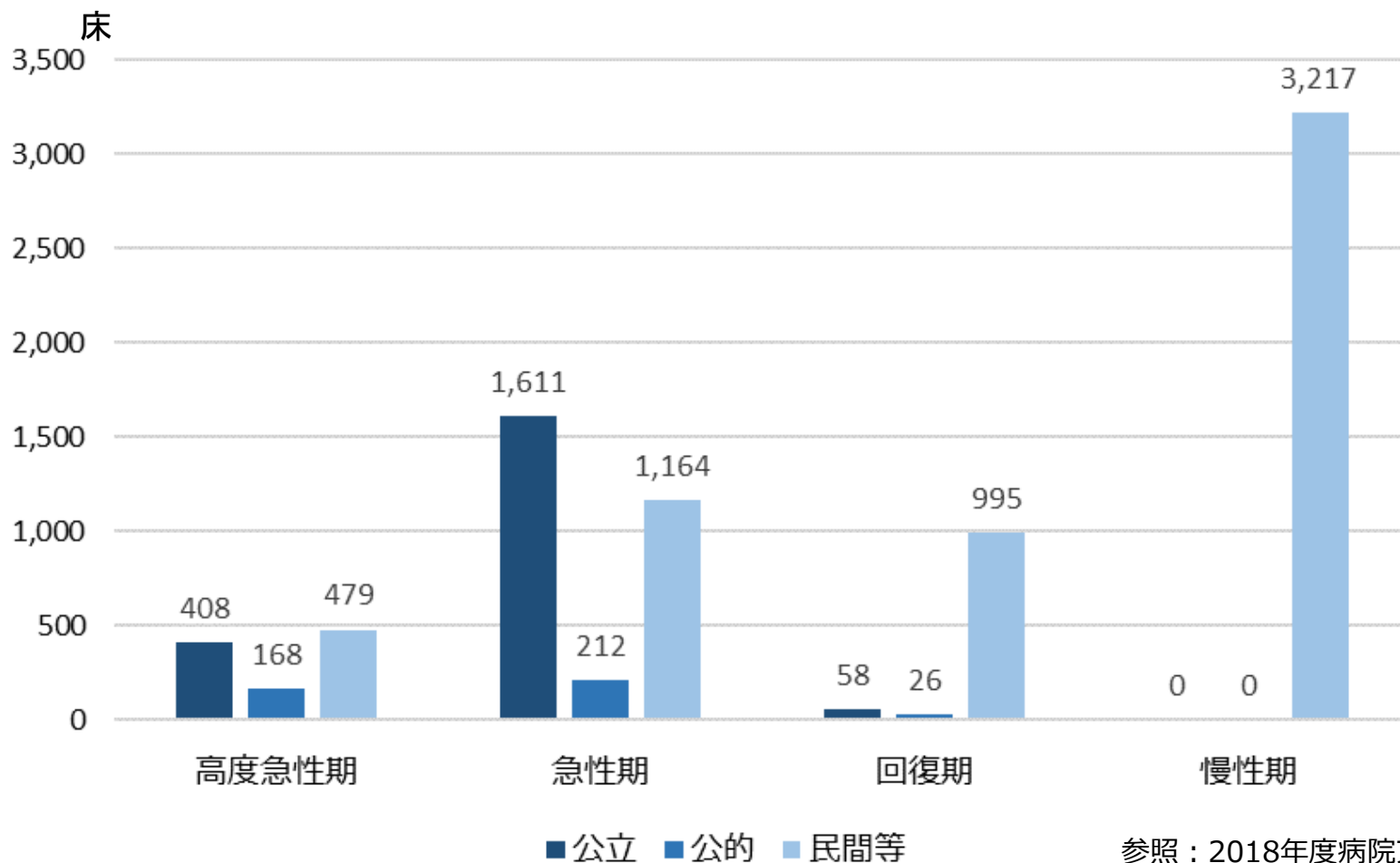
2019年5月末時点
【対象病院数63の内訳】
公立病院：7
公的病院：2
民間等病院：54

※ 「がん診療拠点病院」の□印は「地域がん診療連携拠点病院(国指定)」、○印は「大阪府がん診療拠点病院(府指定)」を示す。
※ 「周産期母子医療センター」の□印は「総合周産期母子医療センター」、○印は「地域周産期母子医療センター」を示す。

1 泉州二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要②(病床機能別実態)

回復期・慢性期において、民間病院等が有する病床数が多い

● 病床機能別病床数(病院プラン等提出61病院(公立7、公的2、民間等52))

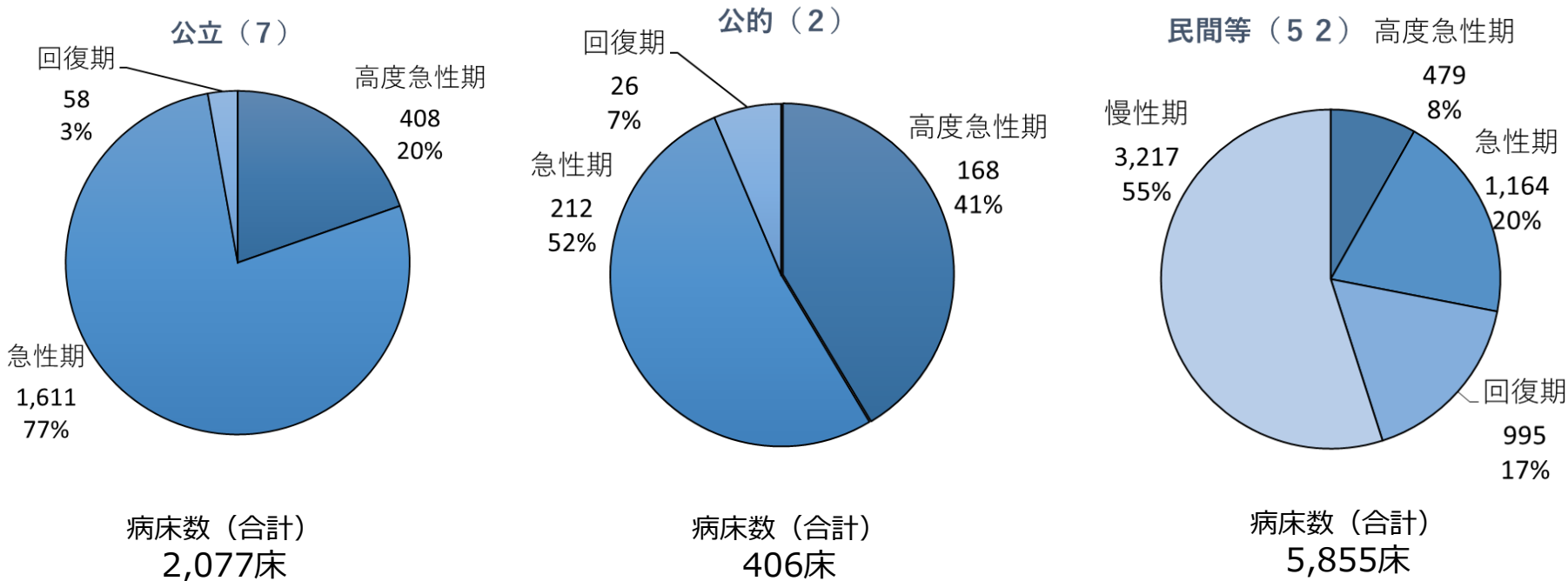


参照：2018年度病院プラン調査等

1 泉州二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要③(公民別病床機能)

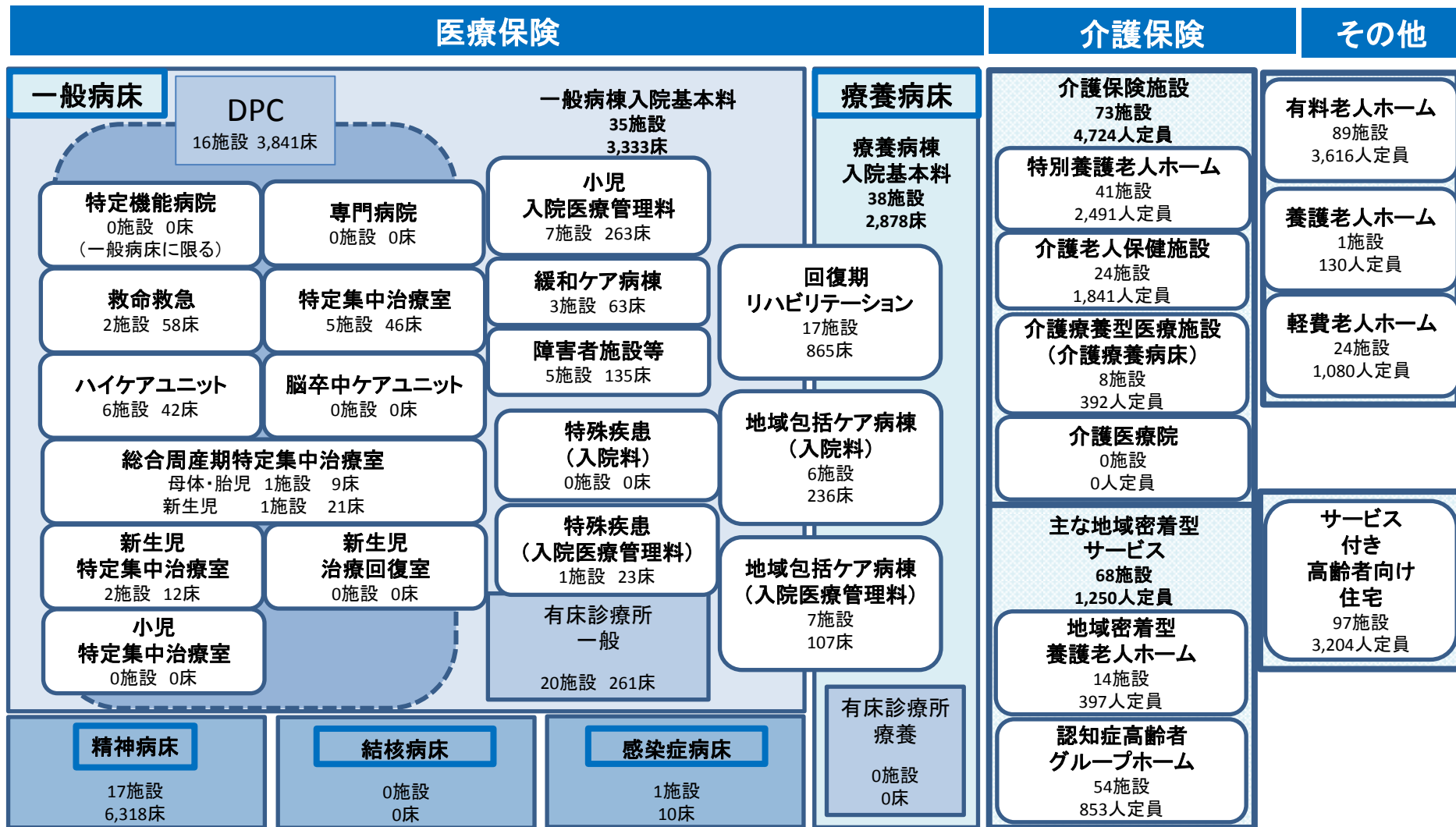
公立・公的・民間等、それぞれにおいて有する 病床機能の割合は異なっている

●公民別病床数の病床機能別割合(病院プラン等提出61病院(公立7、公的2、民間等52))



1 泉州二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要④(医療介護提供体制)

医療・介護提供体制は、多くの機能・施設から構成されているが、泉州二次医療圏には特定機能病院がなく、精神科病院が多いという特徴がある

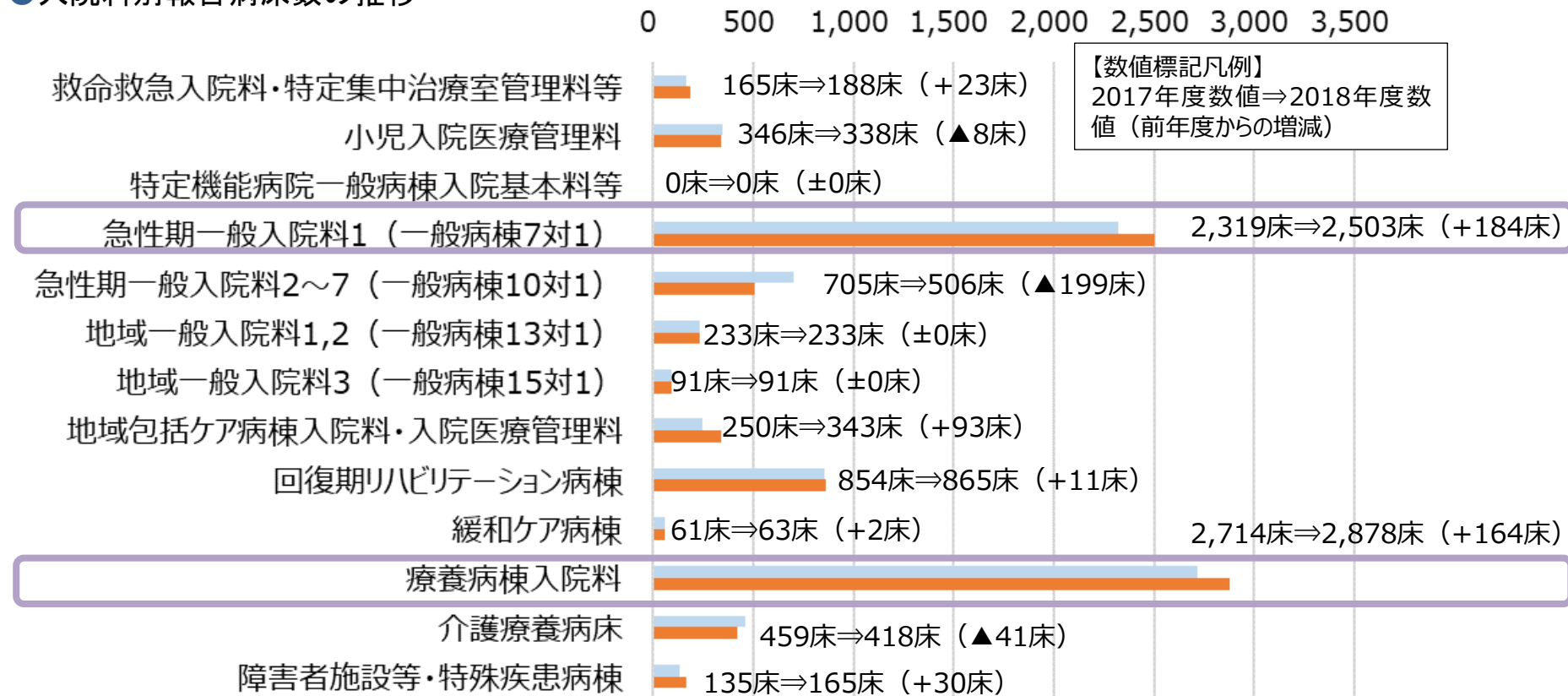


出典 「医療保険」病床機能報告(2017年7月1日時点の医療機能：2018年10月集計)ただし、次項目は右記のとおり、精神科病床・結核病床・感染症病床(大阪府健康医療部資料(2019年3月31日現在))「介護保険・その他」大阪府福祉部資料(認知症高齢者グループホームは2018年1月1日現在、その他施設は2019年4月1日現在)

1 泉州二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑤(入院料別の経年変化)

急性期一般入院料1・療養病棟入院料の 報告病床数は、昨年度より増加

●入院料別報告病床数の推移



【数値標記凡例】
2017年度数値⇒2018年度数値
(前年度からの増減)

■ 2017 ■ 2018

出典 病床機能報告 (結果は暫定集計)

1 泉州二次医療圏の概要 (2) 医療体制の概要⑥(転換補助金)

「病床転換促進事業補助金」の交付病院数は府全体で増加傾向であり、泉州二次医療圏においては3病院に対し、交付実績がある

病床転換促進事業補助金（実績）

大阪府全体

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年	3	3	3	119	119	119
2016年	5	3	0	103	63	0
2017年	7	5	2	303	125	41
2018年	8	6	0	315	285	0
合計	23	17	5	840	592	160

泉州

	補助金交付病院数			補助金交付病床数		
		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院		(内) 病床転換完了	(内) 公立・公的病院
2015年						
2016年	1	0		24	0	0
2017年	2	2	1	52	52	24
2018年						
合計	3	2	1	76	52	24

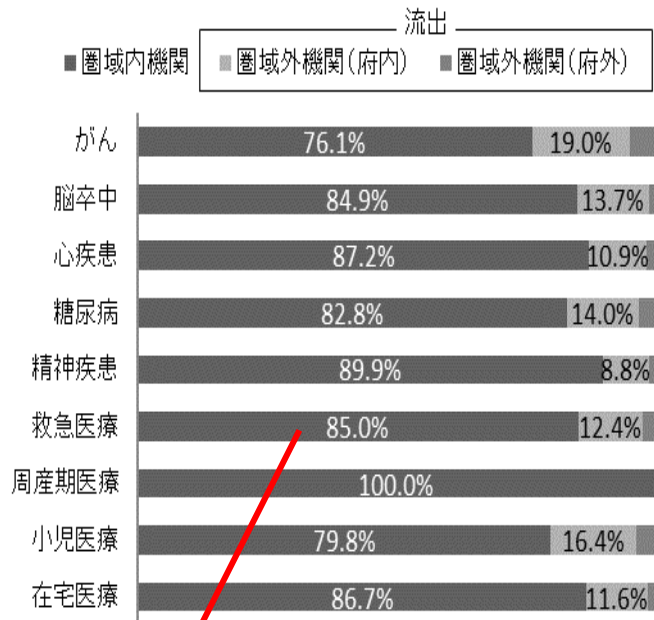
1 泉州二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況①(患者受療状況)

疾病・事業の自己完結率は比較的高く、精神疾患においては、特に流入超過の傾向が見られる

○5疾病4事業・在宅医療

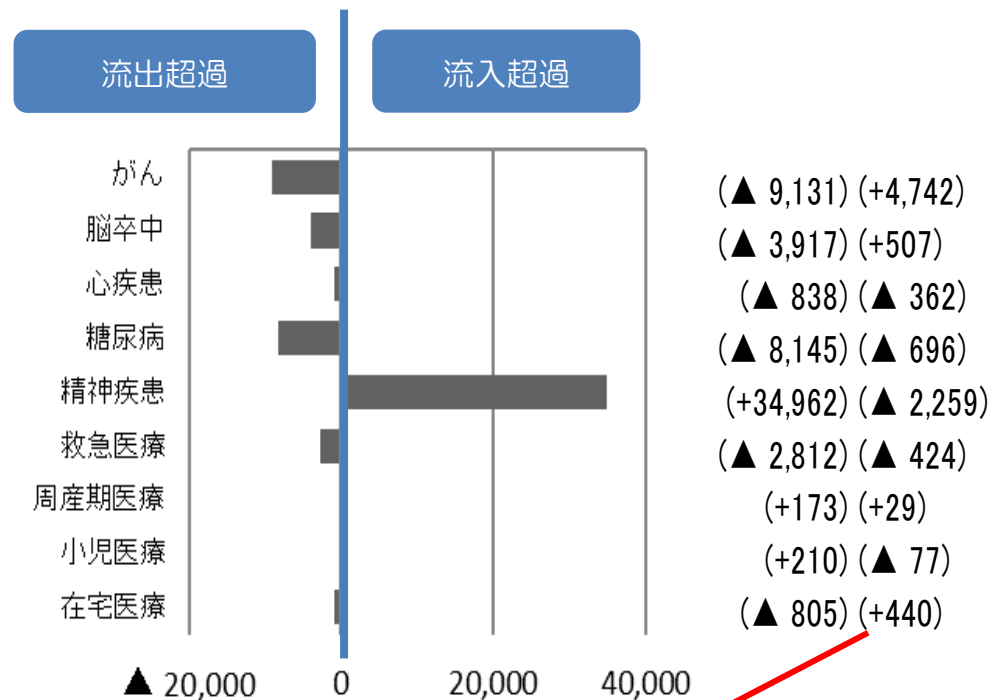
(1)患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

● 住民の入院先医療機関の所在地別割合



救急医療にかかる自己完結率は「85.0%」

● 流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



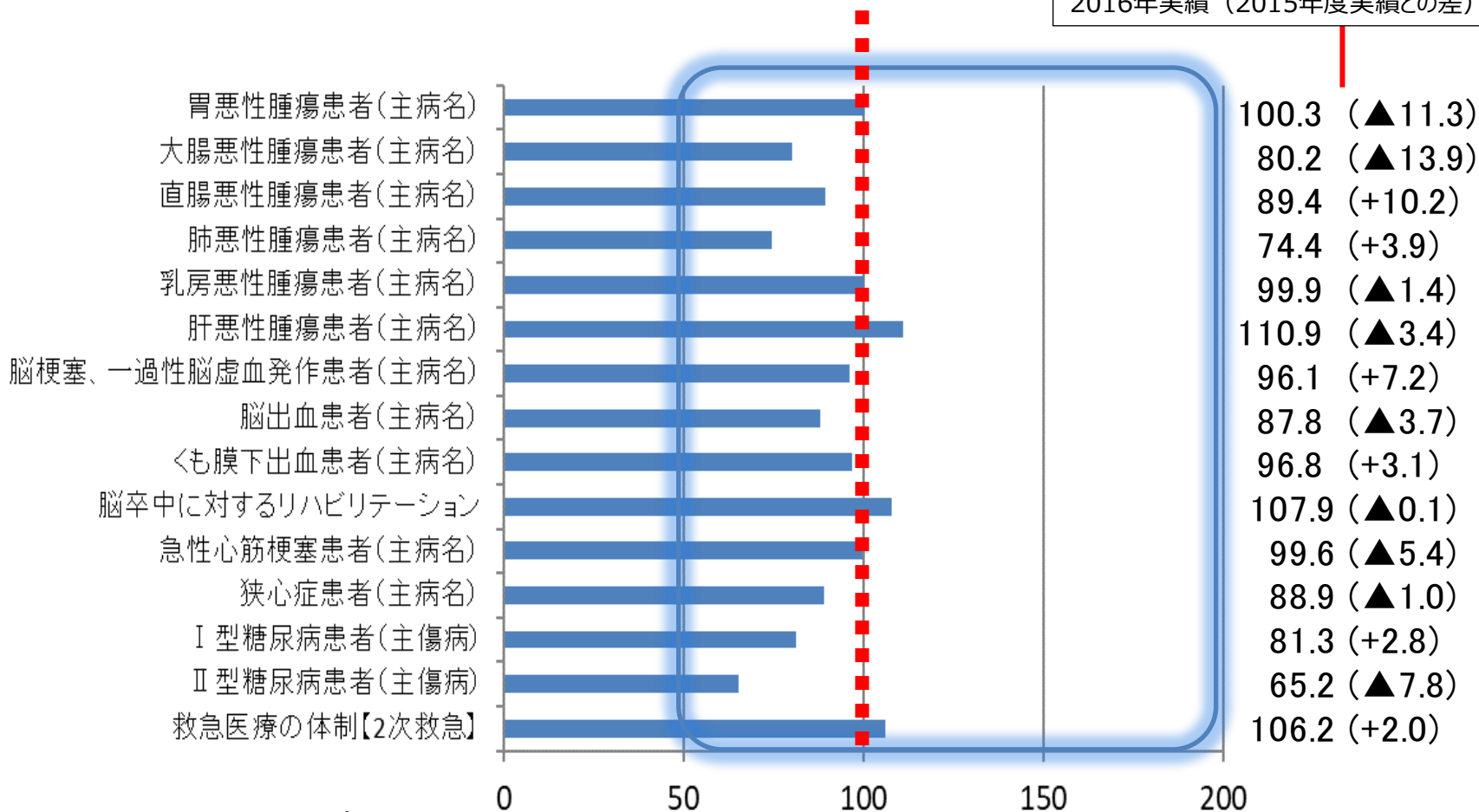
【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

1 泉州二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況②(医療提供状況)

多くの疾患は、SCR(50~200)範囲に含まれており、医療提供実績が極端に低い疾患は見受けられない

(2)医療提供状況(SCR※)(2016年度NDBデータ)

【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)



※SCR:年齢調整標準化レセプト出現比

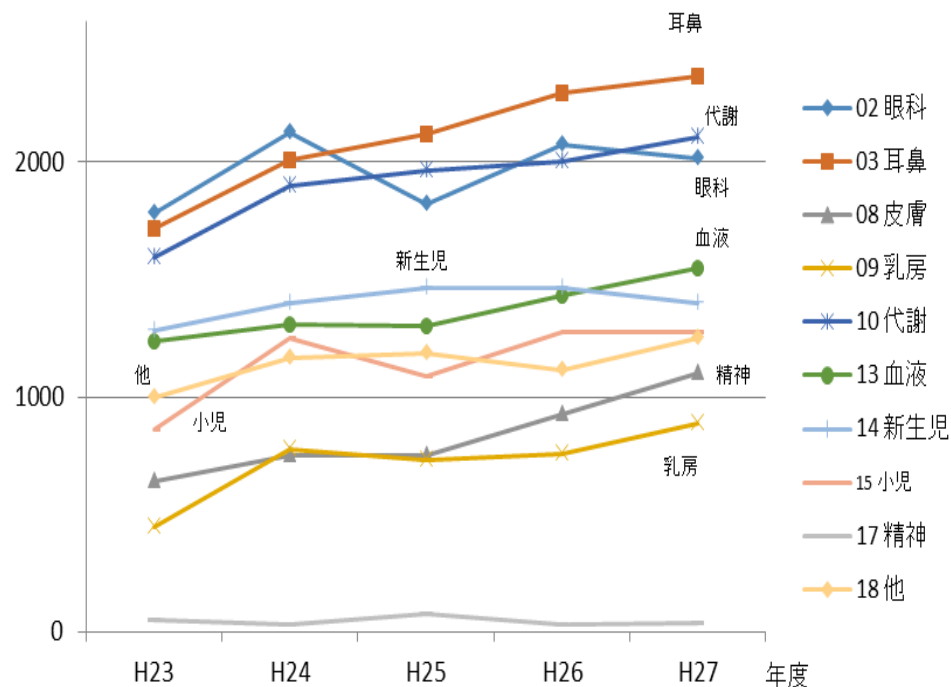
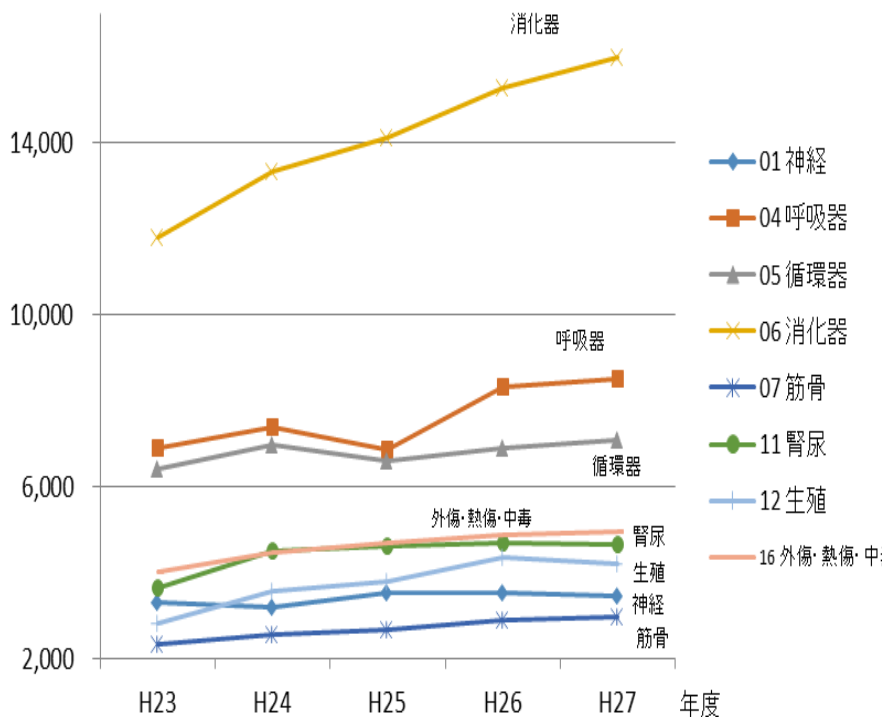
1 泉州二次医療圏の概要 (3) 疾患別の状況③(診療実績の推移)

部位別の診療実績から、「消化管」をはじめ、多くの部位において需要は増加傾向、もしくは横ばいの状態で推移している

ODPC参加病院のMDC※別診療実績の総計推移(泉州)

● 診療実績2,000件以上

● 診療実績概ね2,000件未満

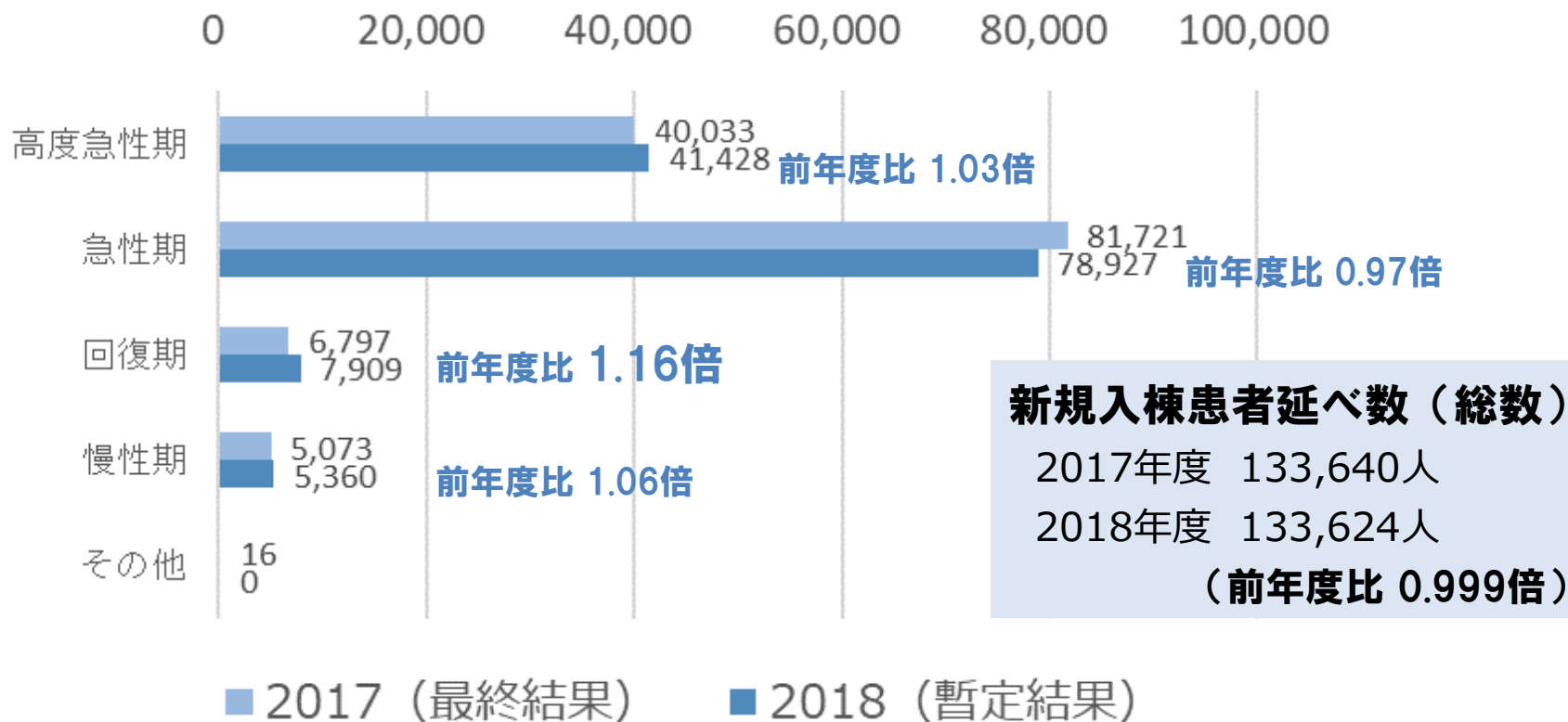


※MDC: Major Diagnostic Categoryの略、18群に分類された主要診断群

1 泉州二次医療圏の概要 (4) 入院患者の推移①(新入棟患者数)

新規入院患者は、回復期において増加率が高い

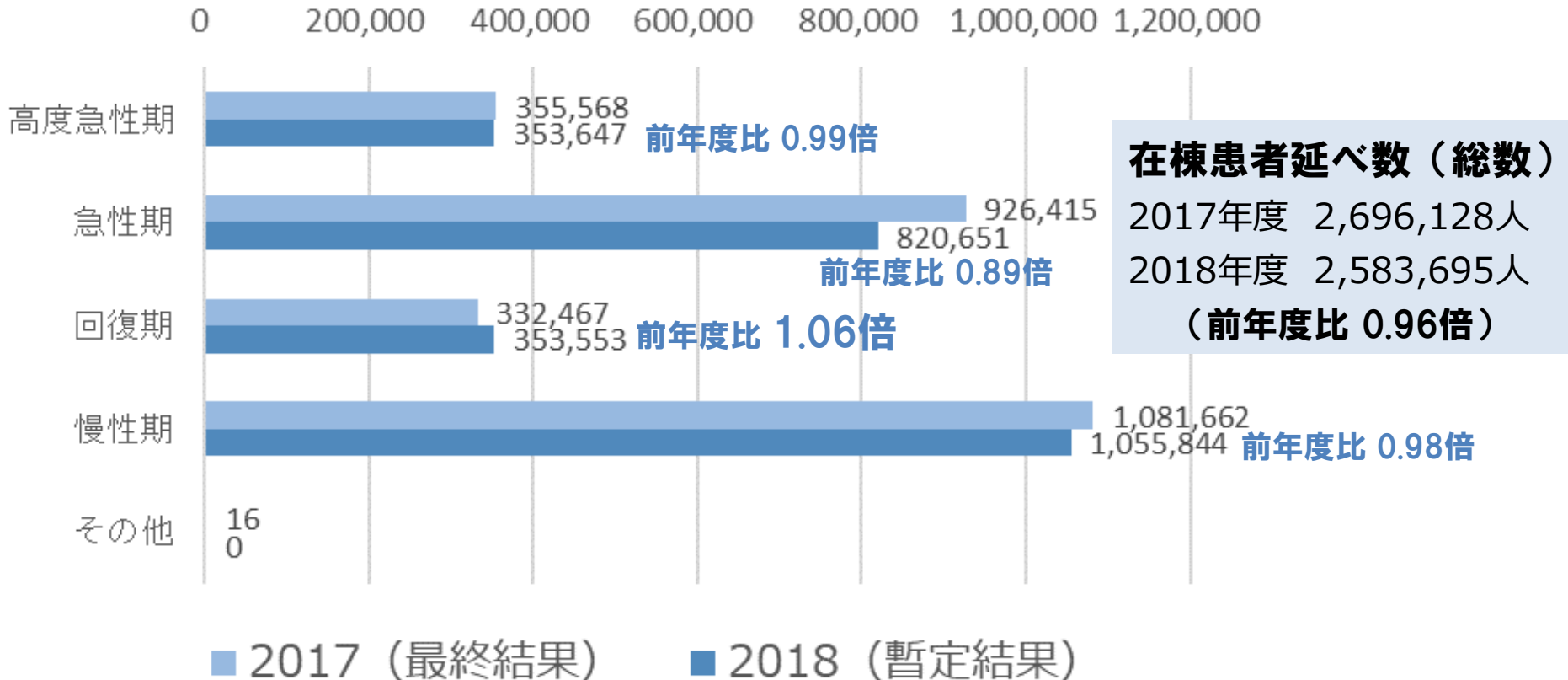
● 新規入棟患者数の推移



1 泉州二次医療圏の概要 (4) 入院患者の推移②(在棟患者数)

在棟患者数においても、回復期において増加率が高い

● 在棟患者延べ数の推移



出典 病床機能報告

1 泉州二次医療圏の概要 (5) 在宅医療提供体制①

人口当たりの在宅療養支援病院数は大阪府平均より高く、
在宅療養後方支援病院数は、大阪府平均より低い

●在宅医療提供体制(人口10万人対施設数)

	訪問診療を 実施してい る診療所	在宅療養支 援診療所		在宅療養支 援病院		在宅療養後 方支援病院	退院支援加 算届出施設 数	訪問看護ス テーション	
			再掲) 機能強化型		再掲) 機能強化型				再掲) 機能強化型
豊能	21.9	18.5	3.8	0.48	0	0.19	2.7	10.5	0.19
三島	19.5	21.2	2	0.94	0.54	0.54	3.1	7.8	0.54
北河内	17.2	12.7	2.1	1.37	0.26	0.17	2.9	10.9	0.26
中河内	20.4	19.2	3.9	0.95	0.47	0.12	2.3	10.7	0.47
南河内	20.9	19.7	3.8	1.31	0.98	0.33	3.1	12.4	0.16
堺市	20.7	19.2	3.1	1.31	0.6	0.24	2.5	13.6	0.48
泉州	17.6	14.5	3.5	2.21	0.55	0.33	2.8	11.5	0.22
大阪市	29.1	29.2	5.2	1.3	0.71	0.63	2.9	12.3	0.48
大阪府	22.5	21	3.8	1.24	0.52	0.37	2.8	11.4	0.37

参照：第7次大阪医療計画一部改変

1 泉州二次医療圏の概要 (5) 在宅医療提供体制の状況

泉州二次医療圏の人口10万人当たりの在宅医療関係施設数は府平均より少ないが、市町村毎にばらつきがある

●在宅医療提供体制(人口10万人対施設数)

	訪問診療を実施している診療所	在宅療養支援診療所	再掲) 機能強化型	在宅療養支援病院	再掲) 機能強化型	在宅療養後方支援病院	退院支援加算届出施設数	訪問診療を実施している歯科診療所(居宅)	訪問診療を実施している歯科診療所(施設)	在宅療養支援歯科診療所	在宅患者調剤加算の届出薬局	訪問看護ステーション	再掲) 機能強化型
岸和田市	11.3	17.4	4.6	2.05	1.03	0	3.6	6.2	6.7	10.3	17.4	11.8	0
泉大津市	22.4	19.8	5.3	1.32	0	0	2.6	5.3	6.6	13.2	10.5	9.2	0
貝塚市	13.5	7.9	1.1	2.25	0	0	2.3	12.4	9	9	4.5	14.7	0
泉佐野市	24.8	12.9	6.9	0.99	0	0.99	3	9.9	8.9	13.9	10.9	14.9	0
和泉市	15.6	15	1.6	2.69	0.54	0.54	2.1	5.9	6.4	8.6	9.1	9.7	0
高石市	26.5	19.5	5.3	5.31	1.77	0	1.8	10.6	17.7	23	24.8	10.6	0
泉南市	16	3.2	0	4.8	1.6	0	3.2	6.4	9.6	9.6	3.2	11.2	0
阪南市	18.4	12.9	1.8	1.84	0	0	1.8	9.2	5.5	9.2	9.2	11.1	1.84
忠岡町	34.7	23.1	5.8	0	0	0	11.6	11.6	11.6	23.1	11.6	0	0
熊取町	13.5	9	6.8	0	0	0	2.3	6.8	9	4.5	24.8	15.8	2.25
田尻町	23.8	47.5	0	0	0	0	0	23.8	35.6	0	0	0	0
岬町	31.4	12.5	0	0	0	6.27	0	6.3	6.3	6.3	6.3	12.5	0
泉州	17.6	14.5	3.5	2.21	0.55	0.33	2.8	7.8	8.4	10.9	12	11.5	0.22
大阪府	22.5	21	3.8	1.24	0.52	0.37	2.8	9.4	8.0	11.8	15.5	11.4	0.37

参照：第7次大阪医療計画一部改変

1 泉州二次医療圏の概要 (6) 診療実態の分析の結果

病床数の必要量における回復期機能を担う病床数の確保には、
泉州二次医療圏で約5%程度同機能への転換が必要と推計

● 病床機能報告と病床数の必要量の比較

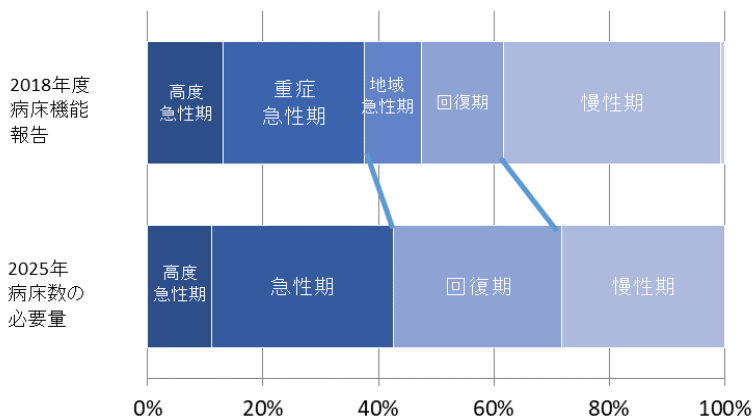
(単位:床)

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等	合計	
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期						
病床数の必要量	2013	923	2,271			1,979	3,291			8,464	
病床機能報告	2014	612	3,647			935	3,409	39	297	8,939	
病床機能報告	2015	618	3,562			970	3,251	55	452	8,908	
病床機能報告	2016	932	3,265			931	3,479	118	171	8,896	
病床機能報告	2017	1,044	3,371	2,248	244	879	1,039	3,321	76	0	8,851
病床機能報告(暫定)	2018	1,166	3,042	2,155	12	875	1,251	3,337	65	—	
病床数の必要量【既存病床数内】	2025	981	2,785				2,592	2,493		8,851	
病床数の必要量【オリジナル】※	2025	993	2,818				2,623	2,523		8,957	

※地域医療構想策定ガイドラインに基づく数値

● 病床機能報告(2018年度)と病床数の必要量(2025年)の割合の比較

区分	年度	高度急性期	急性期			回復期	慢性期	休棟等	未報告等
			重症急性期	急性期(不明)	地域急性期				
病床機能報告	2017	11.8%	25.4%	2.8%	9.9%	11.7%	37.5%	0.9%	—
病床機能報告(暫定)	2018	13.2%	24.3%	0.1%	9.9%	14.1%	37.7%	0.7%	—
病床数の必要量	2025	11.1%	31.5%			29.3%	28.2%		



サブアキュート・ポスト アキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

① 病床機能報告(地域急性期+回復期)

2017年度	21.6%
2018年度(暫定)	24.0%

② 病床数の必要量(回復期)

29.3%

割合の差
5.3%
(約500床)

※2018年は暫定集計(病床機能報告集計日:2019年2月15日)

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (1) 病床の現状

「急性期一般入院料2～7」の報告病床数は減少しており、「小児入院医療管理料」を除き、人口10万人当たりの報告病床数は府平均より少ない

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	泉州				大阪府			
	病床数	前年比	人口10万当たり 病床数	前年比	病床数	前年比	人口10万当たり 病床数	前年比
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	188床	23床	21床	3床	2,155床	84床	24床	1床
小児入院医療管理料	338床	▲8床	38床	▲1床	1,827床	▲74床	21床	▲1床
特定機能病院一般病棟入院基本料等	0床	0床	0床	0床	5,016床	71床	57床	1床
急性期一般入院料1 (一般病棟7対1)	2,503床	184床	279床	20床	27,681床	▲369床	313床	▲5床
急性期一般入院料1【高度急性期での報告】	964床	104床	107床	12床	5,995床	332床	68床	4床
急性期一般入院料1【急性期での報告】	1,539床	80床	171床	9床	21,627床	▲376床	245床	▲4床
急性期一般入院料2～7 (一般病棟10対1)	506床	▲199床	56床	▲22床	8,657床	▲6床	98床	0床

●病床の利用状況

入院料区分	泉州				大阪府			
	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比
救命救急入院料・特定集中治療室管理料等	71.2%	▲15.9%	4.5	▲0.7	75.7%	5.2%	5.1	0.4
小児入院医療管理料	72.5%	▲10.7%	6.9	▲1.3	70.1%	▲4.3%	6.4	▲0.3
特定機能病院一般病棟入院基本料等	0.0%	0.0%	0.0	0.0	86.2%	5.5%	11.2	▲1.0
急性期一般入院料1 (一般病棟7対1)	79.6%	▲7.9%	9.5	▲0.7	83.7%	1.8%	10.7	▲0.2
急性期一般入院料1【高度急性期での報告】	85.4%	▲10.8%	10.0	▲0.5	85.8%	0.6%	10.6	0.3
急性期一般入院料1【急性期での報告】	76.1%	▲6.5%	9.2	▲0.8	83.4%	1.5%	10.7	▲0.3
急性期一般入院料2～7 (一般病棟10対1)	78.2%	1.8%	17.3	2.8	78.2%	2.5%	15.4	0.3

出典 病床機能報告 (結果は暫定集計)

「救命救急入院料」をはじめ、各入院料の自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は高い一方、「一般入院基本料(7対1)」等において、流出超過の傾向が見られる

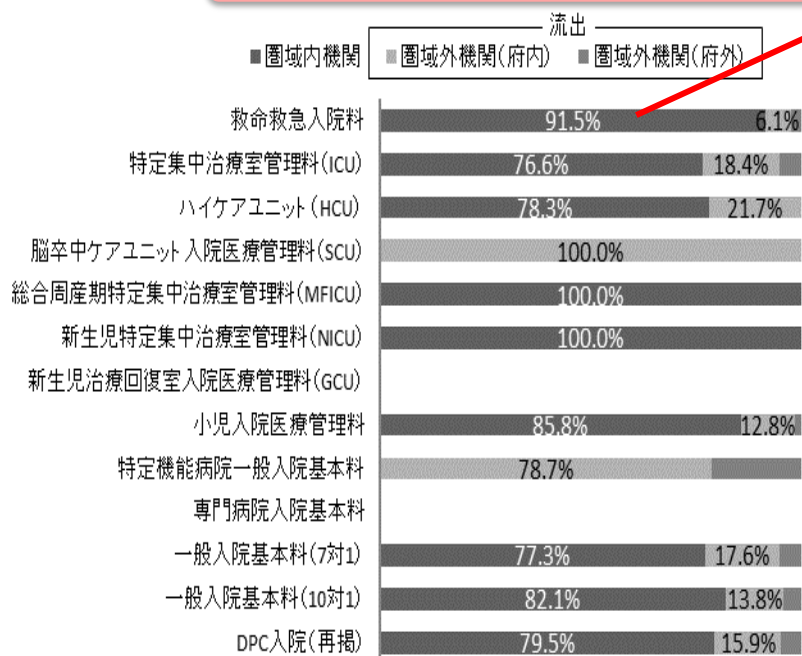
○入院基本料別の状況

(1)患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

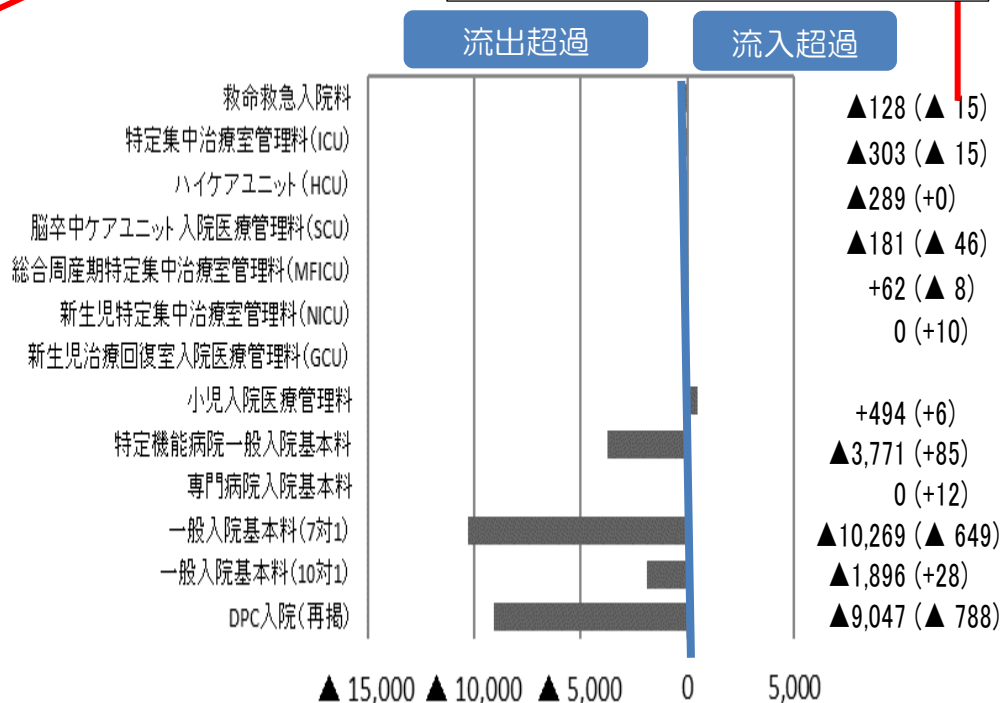
●住民の入院先医療機関の所在地別割合

●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)

救命救急入院料にかかる自己完結率は「91.5%」



【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

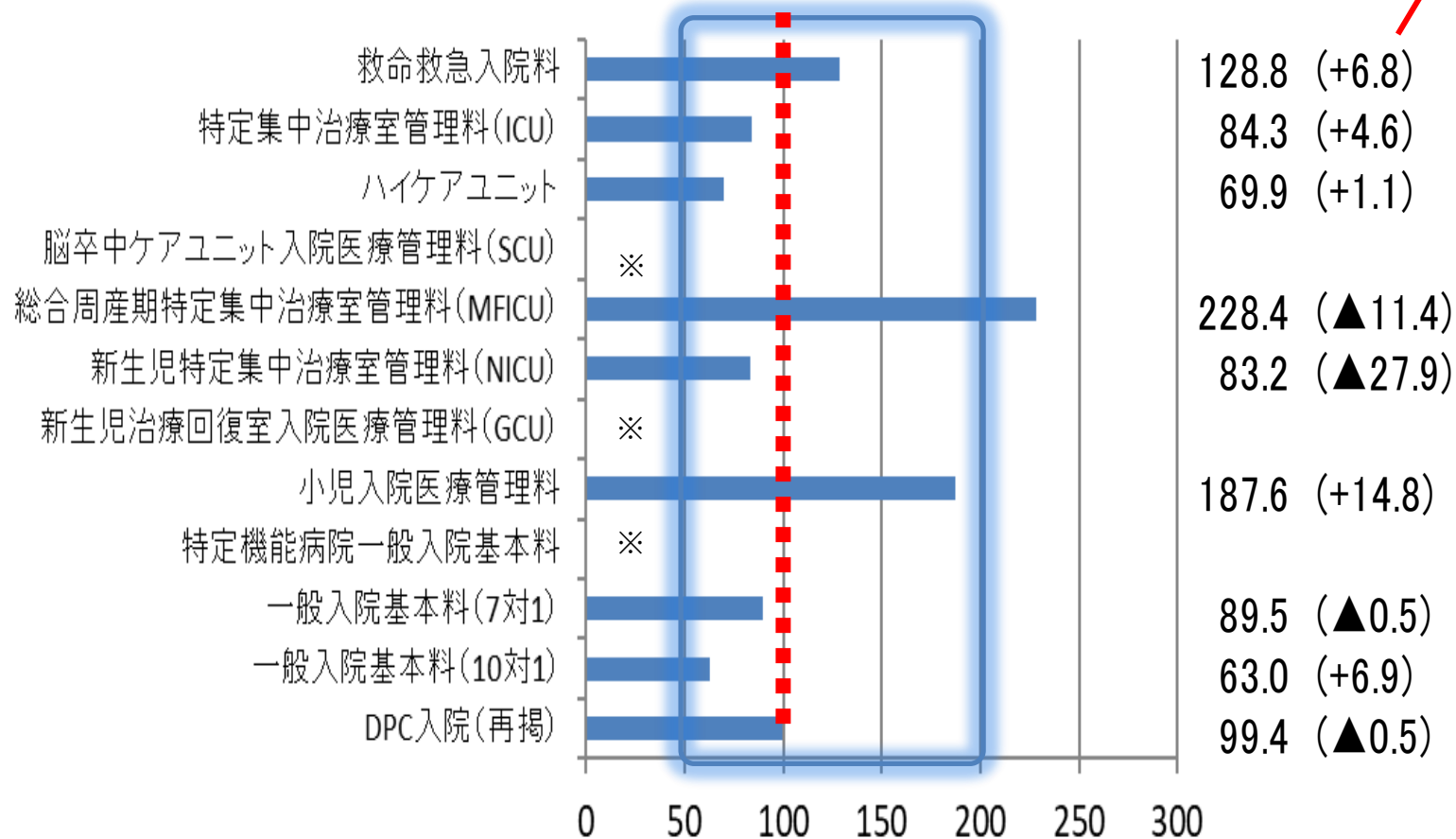


2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況 (NDB) ②

多くの入院料は、SCR(50~200)範囲に含まれており、医療提供実績が極端に低い入院料は見受けられない

(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)

【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)



※SCU、GCU、特定機能病院一般入院基本料は、入院料を取得している医療機関がないため未算出

2 高度急性期から急性期(急性期一般)の概要 (3) 現状と課題のまとめ

- 多くの入院料で、人口10万人当たりの報告病床数は府平均より少なくなっている。また、一部の入院料については、流出超過傾向にある。
- 今後の医療需要増加に対応していくためには、入院料区分毎の病床稼働率の動向や他圏域との流出入の状況等に留意し、急性期の医療提供体制の在り方について検討していく必要がある。

3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (1) 病床の現状

人口10万人当たりの報告病床数では、「回復期リハビリテーション病棟入院料」は府平均より高く、地域包括ケア病床の増加が目立つ

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	泉州				大阪府			
	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比
地域一般入院料1、2（一般病棟13対1）	233床	0床	26床	0床	2,158床	▲72床	24床	▲1床
地域一般入院料3（一般病棟15対1・特別）	91床	0床	10床	0床	2,772床	▲566床	31床	▲7床
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	343床	93床	38床	10床	3,785床	501床	43床	6床
回復期リハビリテーション病棟入院料	865床	11床	96床	1床	5,993床	141床	68床	2床
緩和ケア病棟入院料	63床	2床	7床	0床	643床	50床	7床	0床

●病床の利用状況

入院料区分	泉州				大阪府			
	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比
地域一般入院料1、2（一般病棟13対1）	55.0%	▲20.8%	15.3	▲6.9	63.5%	▲5.6%	21.6	0.1
地域一般入院料3（一般病棟15対1・特別）	82.7%	0.2%	38.7	▲1.2	72.5%	2.0%	38.8	4.0
地域包括ケア病棟入院料・入院医療管理料	76.1%	▲8.4%	24.3	▲1.1	83.5%	5.8%	25.2	1.2
回復期リハビリテーション病棟入院料	79.7%	▲9.9%	52.6	▲2.5	87.3%	▲2.3%	59.1	▲2.3
緩和ケア病棟入院料	44.9%	▲20.4%	20.4	▲1.2	68.3%	▲2.4%	22.9	▲2.3

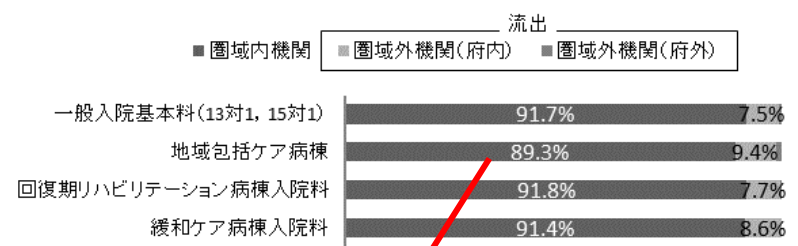
3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)①

すべての入院料において、自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は約9割と高くなっているが、流出超過傾向となっている

○入院基本料別の状況

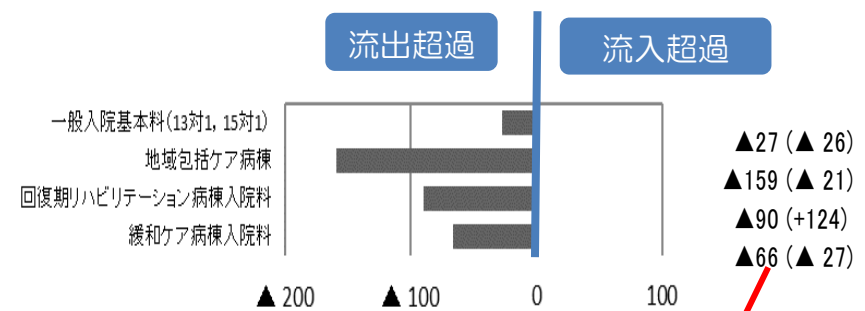
(1)患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

●住民の入院先医療機関の所在地別割合



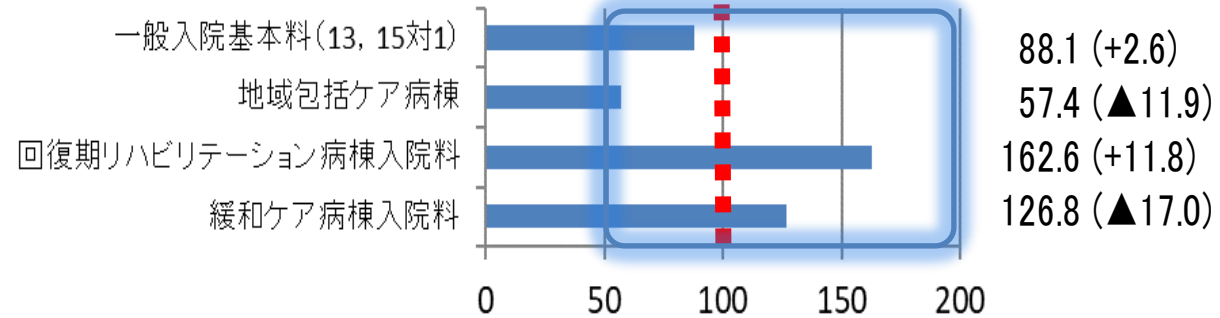
地域包括ケア病棟の自己完結率は「89.3%」

●流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

(2)医療提供状況(SCR)(2016年度NDBデータ)

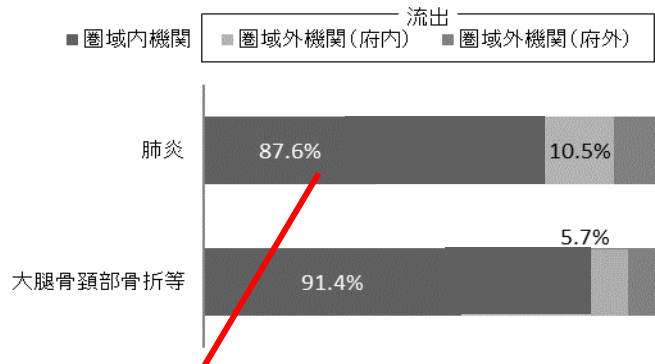


肺炎・大腿骨頸部骨折等について、自己完結率(圏域内の医療機関で入院する割合)は、約9割と高くなっている

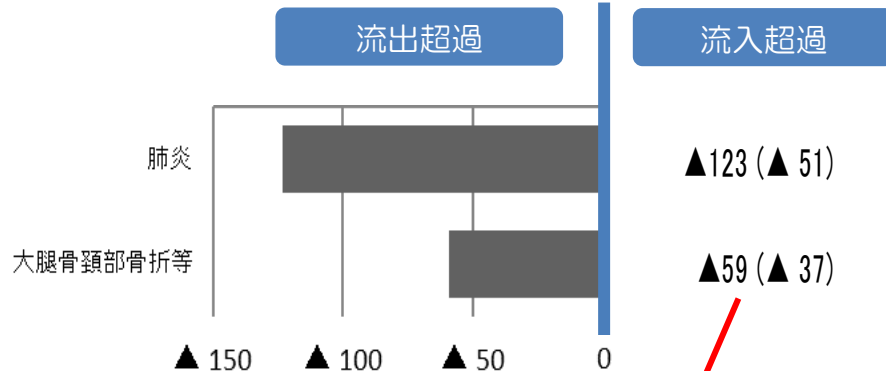
○肺炎・大腿骨頸部骨折

(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

● 住民の入院先医療機関の所在地別割合



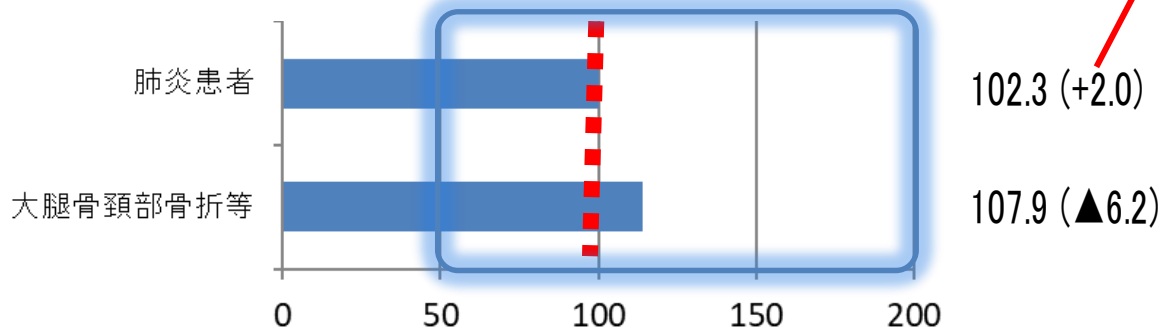
● 流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



肺炎の自己完結率は「87.6%」

【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)



3 急性期(地域一般)から回復期の概要 (3) 現状と課題のまとめ

- すべての入院料において、自己完結率は約9割と高く、肺炎・大腿骨頸部骨折等についても、自己完結率は、約9割と高くなっている。
- 一方、「回復期リハビリテーション病棟入院料」「地域包括ケア病棟」では、流出超過傾向も見られる。
- 今後の医療需要増加に対応していくためには、入院区分毎の病床稼働率の動向や他圏域との流出入の状況等に留意し、医療提供体制の在り方について検討していく必要がある。

4 長期療養(慢性期)の概要 (1) 病床の現状

「療養病棟入院基本料」の人口10万人当たりの報告病床数は、府平均より多い一方、「障害者施設等・特殊疾患病棟入院料」は非常に少ない状況にある

●入院基本料・特定入院料別報告

入院料区分	泉州				大阪府			
	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比	病床数	前年比	人口10万当たり病床数	前年比
療養病棟入院基本料	2,878床	164床	321床	18床	17,007床	210床	193床	3床
介護療養病床	418床	▲41床	47床	▲5床	1,483床	▲305床	17床	▲3床
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	165床	30床	18床	3床	6,295床	406床	71床	4床

●病床の利用状況

入院料区分	泉州				大阪府			
	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比	病床稼働率	前年比	平均在棟日数	前年比
療養病棟入院基本料	85.6%	▲1.8%	207.9	▲20.9	88.6%	0.2%	209.9	▲7.2
介護療養病床	84.3%	▲10.5%	244.6	13.7	83.0%	▲10.0%	322.6	▲16.4
障害者施設等・特殊疾患病棟入院料	90.2%	▲0.6%	82.5	4.1	89.2%	2.5%	85.0	▲10.4

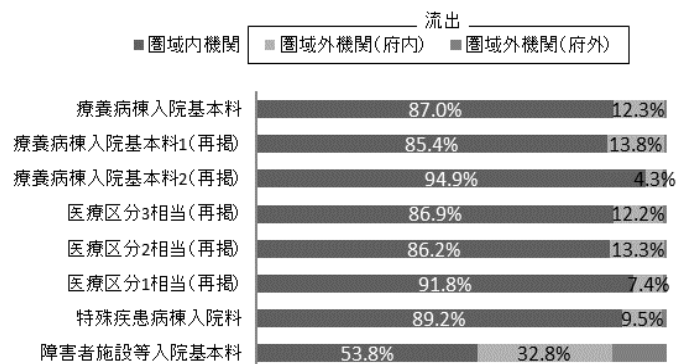
4 長期療養(慢性期)の概要 (2) 患者受療・医療提供状況(NDB)

「療養病棟入院基本料」の自己完結率は87.0%と高く、流入超過の傾向が見られるが、「障害者施設等入院基本料」は自己完結率も低く、流出超過となっている

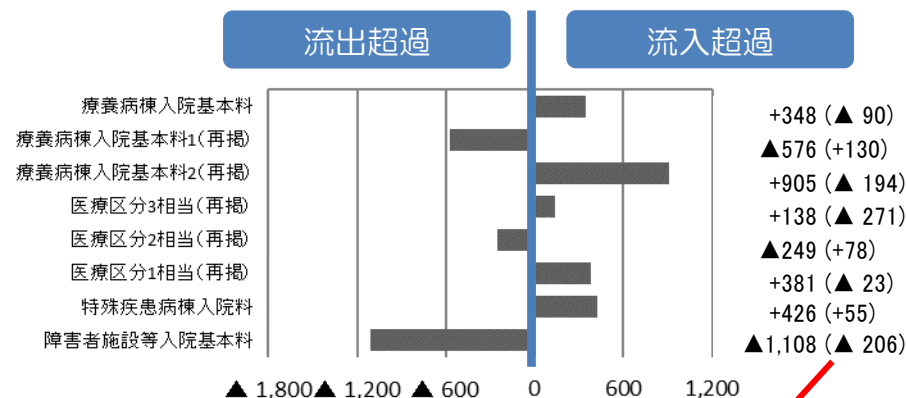
○入院基本料別の状況

(1) 患者受療状況(2016年度NDBデータ【国保・後期高齢者レセプト】)

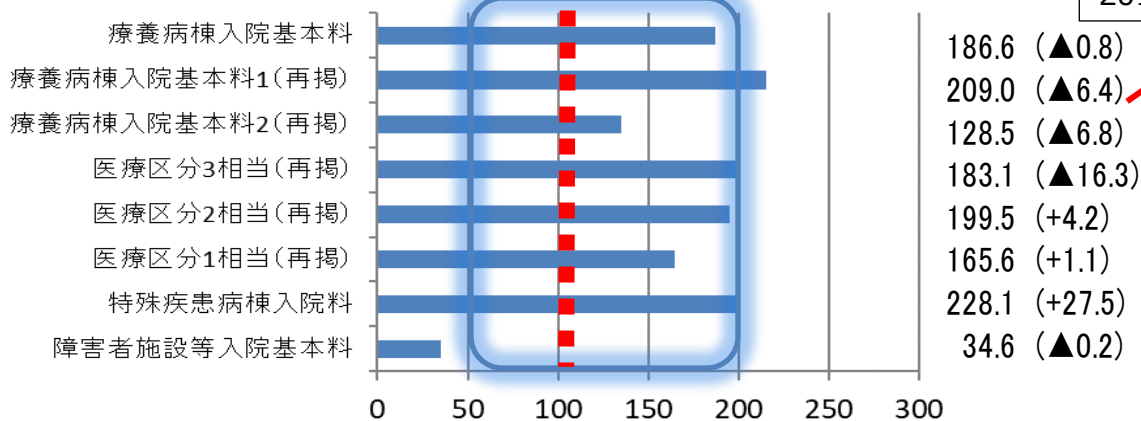
● 住民の入院先医療機関の所在地別割合



● 流入患者と流出患者の差(レセプト件数)



(2) 医療提供状況 (SCR) (2016年度NDBデータ)



【数値標記凡例】
2016年実績 (2015年度実績との差)

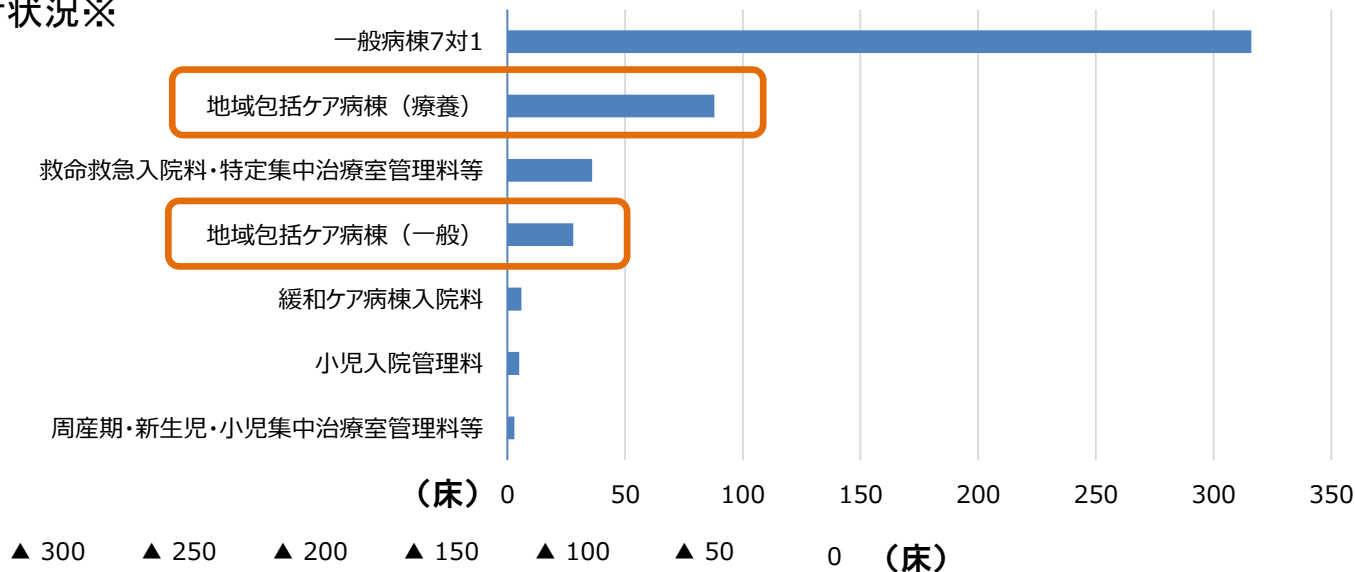
4 長期療養(慢性期)の概要(3) 現状と課題のまとめ

- 多くの入院料において人口10万人当たりの報告病床数は府平均より多く、自己完結率やSCRも高くなっている。
- 今後の需要に対応した病床機能分化を図っていくためには、療養病床の介護施設への転換の状況等にも留意しながら、検討していく必要がある。

5 将来のあるべき医療体制に向けて (1) 2025年に向け各病院が検討している病床機能

各病院が検討している病床機能等の変更は、
構想が目指す病床機能分化の方向性と概ね一致

●入院料別の検討状況※



●公立・公的・民間別の検討状況※

	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	全体
公立	145	▲ 134	24	0	35
公的	0	0	0	0	0
民間等	9	▲ 31	146	▲ 287	▲ 163
合計	154	▲ 165	170	▲ 287	▲ 128



※2025年に向けた検討状況

各病院の2025年に検討している入院料別（病床機能別）病床数総計から各病院の現在の入院料別（病床機能別）病床数の総計を差し引いて算出

5 将来のあるべき医療体制に向けて (2) 2025年に向け各病院が検討している病床機能のまとめ

○将来に向けて、療養病床は減少し、地域包括ケア病棟・回復期リハビリテーション病棟の病床数は増加する傾向が見込まれる。